

平成24年11月の解説（府県天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は、北日本と東日本の日本海側では低気圧の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では寒気の影響により曇りの日が多くなりました。

中旬は、はじめは深い気圧の谷が日本付近を通り、全国的に雨となりました。14日は上空の強い寒気の影響で東・西日本の日本海側を中心に雷やひょうを観測し、15日にかけて冬型の気圧配置となり、北日本から西日本にかけての日本海側では雨や雪となりました。その後、移動性高気圧が本州付近を通過した後、17日には再び深い気圧の谷が通過し、20日にかけて北日本を中心に弱い冬型の気圧配置が続きました。

下旬は、数日の周期で本州付近を低気圧が通り、全国的に曇りや雨または雪となった日がありました。特に26日から27日にかけては低気圧が発達しながら通過したため、北・東日本で暴風となった所があり、27日には冬型の気圧配置となって北日本の日本海側を中心に降雪となりました。

月平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美で低く、北日本では平年並でした。月降水量は、北日本、東日本の日本海側でかなり多く、東日本の太平洋側、西日本で多くなりました。沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北日本、東日本の日本海側でかなり少なく、西日本の日本海側、沖縄・奄美で少なくなりました。東・西日本の太平洋側では平年並でした。

【11月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は85%で例年値^(注)より1ポイント高く、明後日予報は例年値より2ポイント高い83%でした。各地方の適中率では、明日予報は九州南部地方で例年値より6ポイント高く、北陸地方と沖縄地方で4ポイント高くなりましたが、関東甲信地方では4ポイント低くなりました。明後日予報は九州南部地方と沖縄地方で例年値より7~8ポイント高く、北陸地方、中国地方及び九州北部地方では4ポイント高くなりましたが、近畿地方では4ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、例年値より小さい地方が多く、中国地方では例年値より0.5小さくなりました。全国平均は例年値より0.2小さい1.4でした。最低気温の予報誤差は、全国的に例年値と同じか例年値より小さく、北日本では例年値より0.5~0.6小さくなりました。全国平均は例年値より0.2小さい1.4でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の天気予報の利用にあたって】

1月は冬型の気圧配置となり、日本海側の地方で雪や雨が降り、太平洋側の地方では晴れることが多くなりますが、前線や低気圧が日本の南岸を通過する場合などには太平洋側の地方でも雨や雪が降ります。太平洋側の地方など雪が降ることが少ない地方では、数センチの積雪でも交通機関に大きく影響しますし、路面が滑りやすくなるため歩行者への影響も大きくなります。また、例年積雪の多い地方でも、大雪が続く場合には通常の雪への対策では間に合わないこともあります。雪への対策のため、天気予報とともに、最新の気象情報や大雪注意報および警報の発表に留意して下さい。